

滋賀県文化審議会第17回会議 議事概要

- 1 日 時 平成 29 年 2 月 2 日 (木) 10:00～12:00
- 2 場 所 滋賀県庁本館 4 A 会議室
- 3 出席者 委 員：中川委員 (会長)、辻委員 (会長代理)、東委員、伊熊委員、川戸委員、杉江委員、立岡委員、寺嶋委員、殿村委員、富永委員、平松委員、三田村委員、南委員 (13 名出席)
- 事務局：県民生活部浅見次長、森管理監、文化振興課田島課長、馬淵新生美術館整備室長、小林参事、野瀬課長補佐ほか
- 4 議 題
- (1) 滋賀県文化審議会評価部会の審議内容について
- (2) 滋賀県文化審議会次世代育成部会の審議内容について
- (3) その他
- ア 人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略
- イ 文化プログラムについて
- 5 議事概要 以下のとおり
- 浅見次長あいさつ

 - 議題

事務局	<p>■議題1 滋賀県文化審議会評価部会の審議内容について</p> <p>事務局より資料説明</p>
会長	<p>事務局からの説明について、なにか質問はございますでしょうか。</p> <p>(質問、意見等なし)</p>
事務局	<p>■議題2 滋賀県文化審議会次世代育成部会の審議内容について</p> <p>事務局より資料説明</p>

会長	<p>今、ご説明いただきましたが、ご意見・ご質問等ございましたら賜りたいと思います。</p>
委員	<p>(ホールの子事業について) 参加状況での偏りが問題。内容については実体験ということで、それなりの成果が出てきていると思う。参加する側も聞くだけではなくマナーを学べる機会になっている。</p> <p>少数ではありますが、不登校の子供達。こういう人達が反応する。非常に重要なポイントかなと思います。</p> <p>次世代文化賞の選考方法をどうするのか。個人からの推薦は、推薦者の色が付くという懸念の声がありますが、第1次審査でしっかりと資料を出してもらい審査して、たとえば個人的な判断は却下すれば良いと思います。たとえばギャラリーであったり、個人キュレーターの起用などがあってもいいのかなと思います。次世代文化賞の受賞者展。これは実は、去年が初めてです。近代美術館で開催されました。展覧会として非常に良い展覧会だったと思います。それと合わせて、アートマネジメントの講座についてですが、例えば、こういう展覧会の時に補助をして、マネジメントとして関わっていく。美術館の人にとっては、いろいろと手間がかかるとは思います。そういったことも考えられます。個人的にはアートにどぼん！についてですが、美術館のアピールが出来るけど、もう少しレベルアップしても良いのかなと思います。同じものをずっとやっていくと、どうしてもルーティンワークに入っていきますので、そういったことにならないように。あとは広報の洗い直しをしてほしいです。</p>
委員	<p>びわ湖ホールの事業が非常に充実してきていますので、なんとか全県民の子ども達に来てほしいです。訪問していただくのも良いのですが、やはりびわ湖ホールで体験してほしいと思います。音響など色々施設、設備も充実していますので。私自身も、アートにどぼん！が何なのかを知らなかったのですが、おそらく一般の方にも分かりにくかったのではないのかなと思います。広報活動が重要だなと思いました。</p>
委員	<p>びわ湖ホールの事業で、来ていただいている子どもさんが少なかったのではないかと資料を拝見させていただいて、是非招待で、子ども達にオペラを体験する機会を作っていただきたいなと思っています。</p>

委員	<p>次世代文化賞受賞者は、音楽や美術などのクリエイターの方がメインになっているので、アートマネジメント賞みたいなものをできれば入れてほしいです。広報の面も含めて、そういう賞を作ってみてはどうかと思います。音楽やアートは決してクリエイターだけが作っているものではなく、それを支えている仕事も重要なので、説得力を持つと思います。</p>
会長	<p>県内市町の文化振興関係課とのネットワークの構築についていろいろなデータも上がってきており、これは引き続きやっていただきたいと以前に部会でお願ひしました。そこから少しステップアップして提案したいと思っていますことがあります。県内の担当者会議として、できれば政策担当者の会議と、アートマネジメントとして現場を担当する人の会議と2つ必要だと思います。2020年のオリパラを迎え撃つ事業の協調体制や、協力体制が必要だと思います。滋賀県が今持っている力を使えば、かなりパワーアップすると思います。アートマネジメントに関して、びわ湖ホールを中心として頑張ってくださいますが、政策学習みたいなものを幅広く入れていけば、もっと参加者も増えるだろうしパワーも出るのではないかと思います。県庁とびわ湖ホールが手を組むということが、あっても良いのではないかと思います。県庁は、政策・企画の研修を担当する。ホールは、アートマネジメントに実技を教える。それを県とホールとが一緒に共催でやる、そういう仕組みがあっても良いのではないかなと思います。</p>
委員	<p>表舞台と裏舞台のところですが、やはり幼い子どもたちに舞台裏を含めた体験をしてもらうことは、将来にもつながっていくので、重点的に取り組んでいただきたいと思います。</p>
委員	<p>いろいろな賞をあげられるというのは、非常に良いことだと思うのですが、それをどんなふうに自慢できる仕組みを作っていくのか非常に重要だと思います。県庁のサイトの中で文化賞が紹介されているのか分からないのですが、一つのページを作って顔写真とプロフィールを入れて受賞者の紹介をインターネットにしてあげる、それだけでも全然、変わってきます。それをリンクして自分で仕事を組むことも出来ますし、受賞者が自分を自慢出来る仕組み作りが次に続くことだと思います。</p>

事務局	<p>ご指摘は確かにおっしゃる通りであって、お一人お一人のお仕事の拡大に繋がっていくなら、我々としてもこれほど有意義なことはないので、是非、検討させていただきます。</p>
委員	<p>(次世代文化賞の推薦者について) 現場のギャラリーの人たちもありだと思います。京都市は実際に、ずっとその形でやっていますし、先日も言いましたが、受賞者からも選んでもらう。過去の受賞者からも。そういったことも大事なかなと思います。</p>
会長	<p>特定の流派や派閥みたいなものに左右されないということ意識して、なおかつ推薦母体みたいなものを上手くセレクションするという方法は必要だと思います。数が多ければ受賞できるというルールではないと思います。組織票でくる可能性も無きにしも有らずですので、それでは質の判定はできませんから。もし行政単独で苦しいのなら、例えば審議会の評価部会に審査を委ねる方法もあると思います。</p>
委員	<p>文化というものは街づくりや人づくり、または地域経済の活性化に関連付けられており、そういう部分においても評価基準や次世代の育成などで議論されてみてはと思います。アートをどのようにしたら街づくりや経済で活用して活性化できるか。いかにマネジメントとして維持できるか。また整合性をとって活用できるか。外部の環境との接点をいかに見つけていくのか。観光からいうと文化は貴重な資源です。滋賀の文化はお客様に楽しんでいただける、感動していただける価値があると思っています。</p>
会長	<p>観光と関連した文化の議論は、びわ湖ホールの際に議論なさったと記憶しております。県立美術館、図書館など、県の文化施設と観光について、さほど深めていなかったなと反省しております。今後もその視点を入れた評価を意識させていただきます。本来のマネジメントは管理なんです。いわゆる文化政策。組織管理、技術管理、施設管理だけでなく外に打って出る。広報やマーケティングを視野に入れてマーケットを育てる。アーティストを社会とつなげる。アートを使って社会を活性化させる。アートを使って経済を活性化させる。ということも含めてアートマネジメントと理解して学会を立ち上げた記憶があります。</p>

委員	今、委員が言われたのは、オリンピックに向けての文化プログラムの中で、十分考えていけると思います。
会長	次に、議題の3に移ってよろしいでしょうか。その他でございますが、大変重要な報告事項が2つありますのでご説明をお願いいたします。
	■議題3 その他
事務局	事務局より資料に基づき 人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略 を説明
委員	全体を見せていただいて、その中での文化の位置づけや戦略、今まで部分、部分でしか見えてこなかったことが、全体が見えてきますので、ぜひとも参考にしていきたいなと思います。
会長	審議会の評価資料に書かれています基本指針よりも更に詳しく書かれていますので、むしろこれがバックアップ材料というか、推進のための計画というような気がします。
事務局	事務局より資料に基づき 文化プログラムについて を説明
委員	アール・ブリュットのイベントを中心にされておられますけれども、新生美術館の3本柱のうちのあとの2つには、力を入れずということになるのですか。このチャンスにぜひ滋賀県の人にも地元の仏像を見ていただきたいのですが、これは市町にお任せするということなのですか。
事務局	昨年の秋に近代美術館で仏教展を開催いたしまして、それについてもアクション申請したのですが、民間企業が主催者に入っているものは認められないということで、認証に至りませんでした。新生美術館県民フォーラム2016は、11月23日に開催したものであり、滝田氏や比叡山延暦寺の小堀氏に出させていただいて、知事や成安造形大学の岡田学長などと一緒に新生美術館の神と仏の美の重要性等についてお話をさせていただいております。アール・ブリュットについてだけここでやっていくということではなく、仏教、アール・ブリュ

	<p>ットに限らず、何でも上げていくという基本的な考え方ですが、募集の開始された時期の後に開かれる、あるいは行うイベントは限られておまして、年度の後半に行われるイベントに限って、申請がなされているという現状でございます。しかしながら来年度は、当然年度当初から対象になってくるわけですので、文化振興課の関係するものがあれば、積極的に全て申請をしていくということで考えておりますし、いろいろな取組が県庁内で行われていくということも見込まれていますので、ここに上げていきますと組織委員会のホームページにも載りますし、そういうところに発信していきたいと考えております。</p>
委員	<p>こういう取組ですが、中央でアピールしてもらいたいということで、秋に出来ます情報拠点、そういう所へどんどん出て行って、逆に向こうから情報を得てくる、そういう活動を活発にしていってほしいと思います。そこで産業や観光、文化の振興のために出先機関として本格的にやっていってほしいと思います。</p>
事務局	<p>東京の情報発信拠点でございますけども、県庁全体として発信を強くしていくということで、来年度の秋にオープンするというところで、今、日本橋に準備をしているところです。産業の関係、観光の関係はメインのコンセプトとしてやっているわけですが、文化関係につきましても当然、滋賀県の魅力ある資源としてアピールをしていきたいということで、情報発信拠点を活用していくために関係の各課と連携を図ってまいりたいと思っております。</p>
会長	<p>東京オリンピック・パラリンピック2020参画プログラムについて、滋賀県においては、もう既に着手しているものもあります。28年11月に、県民フォーラムやっておられますよね。もうすぐオール・ブリュットネットワークフォーラムが、びわこ大津プリンスホテルで行われます。国際フォーラムもあると。同時に、滋賀文化プログラムの策定のところを書いてあるとおり、県内の市町や関係団体と協議するという、アクションを起こすチャンスなのです。オリパラに向けた気運を醸成し、市町にとってもエネルギーアップするチャンスであると思います。単なる年中行事でやるのではなくて、もう一度、底力を出し合うことでチャンスになる。滋賀県にしても、県内の市町関係行政当局および文化ホール担当者およびNPOや民間団体とネットワークを作る絶好のチャンスだと私は思っています。</p>

事務局	<p>市町との連携についてですが、昨年の11月に全市町を訪問しまして、市町によっては文化担当だけではなく観光等の担当の方も一緒になって話をさせていただいた所もございました。市町ごとにこれから打ち出していきたいと思っているものも違っておりますし、規模も違っておりますけれども、そういうところでどのように連携が出来るのかなとディスカッションもやっております、出来る範囲でまずは一緒にやっていきたいと思いますということをお話しておりますので、これを繋げていくということと、前回の会議で商工会等でも検討されていることがあるのでというお話がございました。これを踏まえましてその後、商工会へも足を運ばせていただいて、意見交換をさせていただいたりもしております、単に国のやり方に受け身でということではなく、もう少しこの機会を生かして、どういうふうに発信していくのかということ、是非、関係者と連携を強めながらやっていきたいと思っております。</p>
委員	<p>文化というものに対する価値が、なかなか観光や経済界では共有するための知識や経験がないもので、できるだけ文化の方から寄って来てほしいです。そういう意味での価値の共有化と言いますか、CSVということで、あるいはシェアするということ、どのようにクリエイティブにしていくかということ、クリエイターが多い文化のほうから、観光や経済を見てもらわないといけませんので、是非その視点から、文化から観光なり経済の活性化の方に寄っていただく。クリエイターに価値を共有してもらえそうな施策をお願いしたいです。</p>
委員	<p>様々な取組があつて凄く期待しますが、大学生も含めて出来るだけ若い人を取り込んでほしいです。やはり政策のところではいろいろと行われていることが、意外と若者には伝わっていないのかなと思いますので、企画をする段階等で何か上手くいく方法はないかなと、お話を聞きながら考えていたところです。</p>
委員	<p>人口減少の関連なのですが、高齢者の方へ視点を向けますと、滋賀県が文化振興を進めるうえで高齢者をいかに活用していただくのか。ステージを設けることが大事だと思います。あと1つ気になった点なのですが、県立文化施設の文化ボランティアの人数があまり増えていない。なかなか若い方や現役の方はボランティアをお願いしても難しいですが、特に高齢者の方で退職された方で県内に非常に優秀な方も</p>

	<p>おられますので、そういった方を文化振興のボランティアをはじめ、いろいろな子供たちへの指導、そういった活躍できるようなプログラムを入れていただければありがたいんじゃないかな、というふうに思います。</p>
委員	<p>人口減少の絡みとして、市町で何か文化事業ができないのか。次世代だけではなく、いろいろ含めて地域そのものに対しての文化事業をもう少し企画的にできないものかなと、もう少しタイアップしていけばどうかと考えております。</p>
会長	<p>市町とのネットワークと連携協力事業ということですね。</p>
委員	<p>そうすると、人口減少ももう少しなんとかなるのではないかなと。文化事業も、もう少し底辺が広がっていくのかなと思いますので。今年でなくても来年でも結構ですので、何かテーマ的なものが設定できればと思います。</p>
委員	<p>アール・ブリュットを推すということに非常に賛成です。アール・ブリュットは滋賀県の宝物だと思っています。今、時代がどんどん変化して行って、世界的にオンリーワンで目立つという事が必要だと思います。情報が溢れすぎていて、これこそ、ここにしかないというのが非常に必要で、その中で滋賀県のアール・ブリュットは世界的に関心が高く、非常に分かりやすく注目を集めやすいと思います。これを1番槍にすることで、滋賀県の魅力が非常にピックアップされる。オンリーワンを目立たすことによって、産業も集積してきますし、向こうから集まってきますので、先程、委員がおっしゃったCSVのバリューに当たっていくのではないかなと思います。今は、世界的にどれだけブランドを立ち上げるかということなので、世界的な関心が高いアール・ブリュットに対して、1番槍として、それを急先鋒として世界に打ち出して注目を集めて、そこから仏像や素晴らしい文化というものを芋づる式に出していく。そういった戦略というものが今後必要ではないかと思います。</p>
会長	<p>世界を目指すということですね。</p>
委員	<p>東京2020参画プログラムというのがチャンスになると思いま</p>

	<p>す。いろいろなものを出すということではなく、滋賀県としてアール・ブリュットというものは、ストーリーが物凄くしっかりしていて、信楽焼があってここが生まれてきた。このストーリーというのは、分かりやすいですから世界的な関心を集める宝物になるのではと思っています。</p>
委員	<p>委員の仰ったことで、人口の五分の一くらいが何らかの形で障害のある方である。精神障害も含めて。その皆様に優しい宿泊施設や観光施設や受入態勢。また経済界では、そういった方を雇用するための活動をいま滋賀県の中でもいろいろやっており、そういう方が芸術だけでなく労働生産性を高めていくための能力を非常に良いものを持っておられる。そういったことも含め文化だけではなく、価値というものを産業界で認めつつあるので、芸術というものだけに特化せずに経済や観光と合わせて、滋賀県が全部特化して含めてやっていく活動に、特に先ほど言いました文化でクリエイティブしていただいて、ほかの産業を引っ張っていつてもらえるような軸を、全部で繋ぎ合わせていければ、もっと大きなインパクトが滋賀県に起こってくるのではないかと思います。</p>
委員	<p>総合戦略に、結婚、出産、子育ての滋賀プロジェクトがクローズアップされていますので、絵本というキーワードでの施策をやっただけだと、若いお母さん方に非常にくいつきが良いのではないかなと思います。もう一点は、子育てするうえで、自然環境が素晴らしいという力を、琵琶湖の保全及び再生に関する法律ができましたので、これを文化の側面からバックアップしたり、いろいろな施策やプロジェクトが出来たら良いと思います。</p>
委員	<p>絵本のPRを是非していただきたいです。私も、ボランティアさんの数が増えていないところが気になります。本当にボランティアさんはいろんな所に巡回して、文化活動に対してのサポーターや応援団になってくださいますので、研修した方が登録されるという形なのか。どういうふうに登録されているのか、実際、登録されていても活動をされていないのかを教えてくださいたいと思います。</p>
委員	<p>是非、若い方達に演奏をする機会を与えていただきたいと思います。市町であまり稼働していないホールもあるみたいですが、よく連</p>

委員	<p>携して地域の活性化に繋げていただきたいと思います。</p> <p>学生達と話をしていると、うみのこ体験のことを滋賀県民の生徒達は凄く語る。その会話を聞いた県外の生徒は、私も船に乗りたいと言って竹生島に船で行ったりしていますので、ホールの子事業も、全県民が語れるようなレベルに達すれば、会話の糸口として県外の人巻き込めるのかなと思います。いつも参加率で苦戦されていますが、全県下に及ぶ文化事業の目玉として、定着出来ればなと思います。</p>
委員	<p>アール・ブリュットという言葉が滋賀県だけではなく日本全国でまだ全然、馴染みがなく、説明するのが非常に難しい言葉だと思います。やはりストーリー作りが大切で、もう少し糸賀一雄さんにスポットを当ててもいいのではないかと考えています。滋賀県民でも糸賀一雄さんを知らない方が多いので、是非、糸賀さんプロデュース作戦を滋賀県でやっていただきたいと思います。</p> <p>世界に発信するという点に関しては、すでに4年ほど前のベネチアビエンナーレ。世界で1番、歴史のある美術の祭典ですが、アール・ブリュットにも凄く注目が集められていて、新しい道を開いてくれる美術としてのかなり専門的な世界の話ではありますが、世界的に評価されていますので、例えば、日本のアール・ブリュットのアーティストを、フランス人の映像作家が撮影し、ドキュメンタリーが上映されたり、世界中が日本のアール・ブリュットに注目し始めていますので、是非どんどん露出していただきたいと思います。</p>
委員	<p>アール・ブリュットの発信には観光も含めて総合的に検討してみる必要があるのかなと思います。ローザンヌは滋賀県の琵琶湖と同じようにレマン湖という湖がありまして、アール・ブリュットが非常に盛んな美術館があったり、そういうことで観光も非常に活発にこなしていますので、是非ともいろいろなところで情報を吸収されて、県をあげて視察団が行っても良いのかなと思います。</p> <p>個人的には人口減少、高齢者の文化ということも踏まえて気になります。滋賀県には材料がたくさんあります。それを組み立てられないことがポイントなのです。伝統芸能なら伝統芸能だけでなく、たとえば農業等とミックスする、コーディネートしていった新しい文化を創り出す。滋賀県には、ものすごく可能性があると思います。例えば、伝統芸能と一番新しい若者のパフォーマンス、コンテンポラリー、こ</p>

	<p>れを組み合わせる。それを地域に出掛けていってやることで高齢者も参加できる、新しい観点でやるということが滋賀県には必要かなと思います。今までは縦だけなのです。やはりそれを混ぜていくということをやっていないと駄目だと思います。コーディネーターやマネージメントが出来る人や、強力な人が必要な気がします。新しい形が生まれる可能性は十分にあると思います。先ほどの文化プログラムに向けてということでお話したいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>先程、委員からご質問がありました、ボランティア・サポーターの実数はどのように把握しているのかのお答えできますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>評価部会との関係での資料ですが、前回の基本方針の時もそうだったのですが、琵琶湖博物館のはしかけ、近代美術館のサポーター、滋賀次世代文化芸術センターのボランティア、びわ湖ホールの劇場サポーターを足したものでございます。県下では、ボランティアの数はたくさんあると思いますが、基本方針の指標では今の4つをデータとしてあげさせていただいているということでございます。</p>
<p>会長</p>	<p>経済、観光との結びつきでありますとか、高齢者をもっと活用するべきではないのか、若者も大事など、そういう視点が大事だと思います。若者を巻き込む。これは企画段階から構想段階からもっと若者とマッチングすることが大事ということを仰ったと思います。これは総合戦略の推進のところで、県民との対話と共感による推進と書いてありますし、参画とか協働をプロセスに入れていかないといけない。自然環境であるとか、農業であるとか、郷土芸能の観点は絶対に忘れてはいけないというご指摘もあったと思います。それにプラスして、もっとクロスオーバーというか政策コンプレックス、ポリシーコンプレックスの方が重要ではないのか。これと共有するというような視点で政策の優先順位をあげていっては、というようなご指摘かと思います。例えば、経済の活性化に結びつく観光の役に立つように、教育効果が高く福祉に対しても効果がありますよねとか、医療機関とも連携すれば患者さんが喜んでくれるのではないかな等の視点がたくさんあると思います。そういう政策コンプレックスをもっと重要視しようという話だったと思います。縦割りの壁を越えないといけませんね。そうすると文化担当課だけでなく、行政内各部局とのクロスオーバーにもっと力を出してほしい。場合によっては、美術館で音楽祭をやる</p>

か、あるいは、びわ湖ホールで美術展を開催してもかまわないと思うし、相互・相乗りでお互いにやれば良いと思います。障害者福祉施設において、健常者も交えた芸術プログラムが展開されるというような施設のある種の転用というかコンバートを考えたら良いと思います。重層しながら政策効果を上げていこうという発想の話ですが、その中でも実は、滋賀県ならでは重点的、集中的、選択的に決断しようという意見もありましたよね。特に滋賀の自然、歴史、アート等を総合的にぶつけていくという点で、アール・ブリュットには、物凄く価値があのではないかというご指摘ですね。これは世界的に攻めてもいいのではないかと仰ったと思います。ローザンヌが参考になるというお話もありました。マーケティングに力を入れて、世界的な観光名所になりうる可能性があるかと仰ったと思います。以上のようなお話でございましたが、今後の政策の運用の指針として役立ててほしいと思います。

結論、複合的な政策効果を目指そう。市町も含め部局間連携をもっと強めてほしい。県民各層の参画を求めた共同事業を考案していこう。ターゲットは特に若者と問題意識がありました。純粋な芸術施設という意識をもうやめよう。関連する政策波及効果を意識した関連事業を増やしていこう。施設の専用目的以外でも事業を考える。頭文字が全てCになってしまうのですが、コンプレックス・クロスオーバー・コプロダクト・コンバート、これは今後の運用の知恵というか助言と思いました。

それでは、これもちまして議事を終了させていただきます。皆さん、議事進行ご協力ありがとうございました。事務局にお返しいたします。

事務局

■閉会

委員の皆様には大変お忙しい中ご出席の上、長時間にわたりまして熱心にご議論いただき、大変ありがとうございました。

これもちまして、滋賀県文化審議会第17回会議を終了させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。